アオモリトドマツの枯損に係る検討会が開催されました

令和3年11月30日（火）、山形市の山形国際交流プラザ（山形ビッグウイング）で「令和3年度蔵王地域におけるアオモリトドマツの枯損に係る検討会」が開催されました。

この検討会は、蔵王地域のアオモリトドマツ（別名オオシラビソ）林の枯損状況を把握・分析し、今後の対応等を検討するため、平成26年度以降、東北森林管理局が開催しているもので、森林総合研究所、山形両森林管理署、山形大学、山形県森林研究研修センター等山形県関係機関、山形市等自治体、蔵王ロープウェイ（株）等を構成員・オブザーバーとして設置しているもので、山塊を同じくしアオモリトドマツの立ち枯れが確認される宮城県側の関係者も参画しています。

当日は、森林総合研究所東北支所の山中高史支所長を座長に、森林管理局、山形・仙台両森林管理署等から、蔵王地域におけるアオモリトドマツの枯損実態や再生に向けた取組について報告しました。

山形署からは、モニタリングを通じて収集した写真や調査結果を提示しつつ、枯損の経緯と現在までの対応、昆虫による食害、樹氷形成の動向、低標高地に自生する苗の高標高地への移植試験や種子採取の状況等を報告しました。また、山形県観光復活戦略課からは、本年5月に「アオモリトドマツ再生会議（仮称）」が設立されたことのご報告もいただきました。

議事の中では、ガの一種であるトウヒツヅリヒメハマキの幼虫が摂食したために葉が褐色に変化した木が、昨年と比べると増えたことの報告に対し、昆虫生態の研究者から、被害の再拡大につながっていくのかどうかといった観点から、モニタリングをしっかり行っていく旨のアドバイスがありました。

山形署では、今後も、特に昆虫の動向に注意して観察を続けていくなど有識者のアドバイスを活かして各種モニタリング調査を継続しつつ、関係機関のご協力をいただきながら、本格的な被害地の復旧に向けて必要な知見を蓄積してまいります。

樹氷原コース沿いのアオモリトドマツに見られた
ガの幼虫の摂食による葉の褐変

蔵王ロープウェイ地蔵山頂駅付近に設置した
移植試験地と移植した自生苗